

校内研修計画

山梨市立後屋敷小学校

1 研究主題 思考力・判断力・表現力の育成 ～言語活動の充実をめざして～

2 主題設定の理由

新学習指導要領が小学校では、平成32年度から全面実施される。今回の改訂では、社会の変化が加速度を増す中で、これから学んでいく子供たちが大人になる頃の社会の在り方を見据えながら、どのように知・徳・体にわたる「生きる力」を育むのかを重要視している。一方的に知識を得るだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに充実させ、子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指している。討論など課題に対して意見を出し合い、解決方法を探る授業をはじめ、国語では授業で学んだ語彙を表現に生かしたり、数学で学んだ数式や社会で学んだ情報を、問題を解くためだけでなく、身近な場面に結び付けたりと、授業で学んだことをいかに実生活に結び付け、活かしていける力を養うかを課題としている。

本校では、これまでの3年間の継続研究の中で、言語活動に取り組むこと自体が目的ではなく、「言語活動は、あくまでも各教科等の目標を達成するために、最も効果的で意図的、計画的に設定された学習活動の具体的な手だてである」と再確認をして研究を進めてきた。また3期に分けて家庭学習強化月間を位置づけ、家庭学習の習慣の確立や家庭への理解・浸透も図られ、成果を上げてきた。

本校の児童の実態として、課題解決の見通しを持って解決方法を自ら考えたり、自分の考えや感想を明確に記述することや、筋道を立てて考え表現したりすることなどに課題があった。また、一学級が約40名という多集団の学級が多いことや、一斉指導の中で個別の支援を必要とする児童が複数名いること、多様な家庭環境等、学習基盤にも課題を抱えている。それらのことから、知識を活用する力を育成することと合わせ、基礎的・基本的な知識・技能を定着させることも重要となっていた。

そこで、昨年度までの研究で様々な取り組み（授業改善のポイント）を行ってきた。今年度はその授業改善のポイントの上に、更に研究を深め、言語活動を生かしたプラン、アイデアを積み上げていくこととする。そして来たる新学習指導要領に向け、その趣旨を学習し、共通認識をもち、指導の方向性を確認していきたい。

3 研究の目的

- ・児童の学習意欲を高めながら、各教科の特性に応じた言語活動を充実することにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、それらを活用した「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。
- ・これまで積み上げてきた授業改善の要素を更に深め、新学習指導要領の趣旨を学習することを通して、方向性を確認していく。

4 研究内容について

1) 新学習指導要領についての学習会

- 新学習指導要領に向けて講師を招聘し、学習会を行い、共通認識をもつ。

2) 授業研究

- 授業研究による検証。一人一実践を公開し、授業改善と授業力の向上を図る。
- 児童の実態分析と指導法の改善

山梨県学力把握調査（3,5年）、全国学力学習状況調査（6年）等の結果分析から、本校児童の実態把握をし、授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。

3) 言語活動の充実・言語環境の整備

○「言語活動ハンドブック」「子どもたちに豊かな言語環境を」リーフレットの読み合わせをしたりしながら、理論研究をする。

○掲示コーナーの活用を図る。

昨年度から始めた家庭学習強化月間の取り組みを通し、その成果である児童の学習ノートや自学ノートを掲示し、児童の意欲や内容・質の向上をさらに高めていく。

4) 意欲的に学ぶ学級集団づくり

○学級の実態を把握することにより、児童の課題を的確につかみ、指導に生かしていく。

5) 学びの基礎となる学習環境づくり

○発達段階に応じたノート指導を系統立てる。

○昨年度からの取り組みを継続し、授業とリンクした家庭学習となるよう、更に家庭への啓発を図りながら、学習習慣の定着・充実を図る。

5 研究方法について

・[低学年部会][高学年部会]の2ブロックを基本にして、実践的に研究を進める。

ブロックごと1本の授業研究をもつ。

・部会研究の内容を交流し合い、共通理解を持つ。

・一人一実践の取り組みとして、全学級の授業を公開し合う。

6 研究の予定

月	日	曜	回	主 な 内 容	形 態
4	12	水	第 1 回	研究の方向性・全体計画について	全体
	19	水	第 2 回	校内研究の全体計画について	全体・ブロック
5	10	水	第 3 回	教協春季教育研究①	全体・ブロック
	17	水	第 4 回	研究授業に向けて	
	24	水	第 5 回	教協教育研究②	
6	7	水	第 6 回	ブロック研究	ブロック
	14	水	第 7 回	教協教育研究③	
	21	水	第 8 回	授業案全体検討①・学習会（講師招聘）	
7	5	水	第 9 回	※研究授業①・（講師招聘）	全体
	31	月	第 10 回	教協教育研究④	
8	4	金	第 11 回	教育講演会・ブロック交流①	全体
	9	水	第 12 回	教育課程還元報告・学習会（講師招聘）	
	30	水	第 13 回	統一授業研⑤	
9	6	水	第 14 回	ブロック研究	ブロック・個人
	13	水	第 15 回	ブロック研究	
	20	水	第 16 回	教協秋季教育研究⑥	
10	4	水	第 17 回	授業案全体検討①	全体・ブロック
	11	水	第 18 回	ブロック研究	
	25	水	第 19 回	授業案全体検討②	
11	8	水	第 20 回	※研究授業②・（講師招聘）	全体
	22	水	第 21 回	ブロック交流②	
	29	水	第 22 回	教協教育研究⑦	
12					
1	10	水	第 23 回	教協教育研究⑧	全体
	17	水	第 24 回	ブロック交流③	
	24	水	第 25 回	一人一実践の全体報告、紀要作成に向けて	
	31	水	第 26 回	研究のまとめ	
2	7	水	第 27 回	統一授業研⑨	全体
	14	水	第 28 回	冬季教育研究⑩	
	21	水	第 29 回	来年度の方向性について	
	28	水	第 30 回	研究紀要作成	
3					